

大平正芳氏を悼む

デービット・ロックフェラー

故大平正芳総理を偲ぶ回想録が出版されるにあたり、錚々たる友人の方々に伍して、ここに追悼の拙文を寄せさせていただきますことは、まことに光栄の至りに存じます。

大平総理は偉大にして温厚篤実の人でした。

政治家としては、永年にわたり輝かしい業績を残され、とくに経済・外交問題に対する識見については、つとに世界に令名を謳われた方でした。大平さんのような指導者のご好誼をいただいた光栄を思うと同時に、大平さんのような温かい友人を失ったことは痛恨に堪えません。

大平さんに初めてお目にかかったときは今でもはつきりと覚えております。一九六二年のことで、大平さんは当時外務大臣をされていました。大平さんはわざわざ私のために外務省の公館で一席設けてくださり、私はそれまで味わったことのない素晴らしい日本料理の数々をご馳走になりました。後日、大平さんが大変な食通でいらつしやることを知りましたが、さもありませんと頷いた次第です。

世界情勢に対する大平さんの深い洞察力には非常な感銘を受けましたが、大平さんの世界観にも、ひとしお強く打たれるところがありました。大平さんは日米関係が特別な重要性をもつことを明確に理解された政治家でした。しかし同時に、世界とは、万国が一致協力して共通の問題の解決にあたらなければならない一つの共同体なのだという信念を抱いておられたのであります。

この最初の出会いを契機に、大平さんのご交誼を賜わることになり、その後もたびたびお会いする機会に恵まれました。その間、大平さんはつきつきと顯職を歴任され、一九七八年には、ついに総理大臣の栄職を極められるに至りました。その経緯を蔭ながら見守っておりました私としても、まことに嬉しいかぎりでした。今日、日米両国は通商・友好の両面において強い絆で結ばれております。これは大平さんの大きな遺産と申さねばなりません。

アメリカも日本も、ともに八〇年代の厳しい試煉に直面しております今日こそ、われわれのよき友人、故大平正芳総理がいみじくも示された献身、至誠、高邁な理想に深く思いをいたすべきではなかるうかと痛感する次第です。

(前チエース・マンハッタン銀行会長)